

1-3-4-1 大雄寺山門（県指定重要文化財）

所在地 高山市愛宕町 67 番地

所有者 大雄寺

指定年月日 昭和 47 年 9 月 18 日

構造形式 じゅうそういり も や づくり どうぼんぶき
重層入母屋造 銅板葺

大雄寺は、もと吉城郡上広瀬村（国府町）にあったが、金森氏入国後現在地に移され、浄土宗の道場となった。上広瀬には「大雄寺屋敷」という地名が残っている。市内唯一の楼門造で、法華寺、宗猷寺の本堂と共に東山寺院群伽藍の代表的な建物である。

12本の丸柱は太く、カツラ材である。通常のヒノキやスギではなく、カツラやクリ、マツなど多彩な木材を使うことも、木材を知り尽くした飛騨匠の技の大きな特徴である。落とし込み板で囲まれた仁王座前の南北が、透し菱形欄間になっている。透しを通して東山の景観を見せようとの配慮からである。両脇に仁王像を安置している。

二層柱間は下層より狭く、柱頭のふた て さき二手先和様斗組ますぐみが深い飛檐軒ひ えんを支える。下層屋根上に三斗組腰組みつ とで縁を張り出し、高欄で四面を囲む。ここからの市内の眺めはすばらしい。

寛政3年（1791）の大風で倒壊したが、17年後の文化4年（1807）、飛騨権守宗安ひ だ ごんのかみむねやすの流れをくむ近世の名工水間相模みず ま さ が みの手で再建された。

説明板より